

中高生と大学生の交流事業

取組の背景・目的

大学に進学した児童館利用者 OB が、系列の学校の部活動で中高生にバスケットを教えているという話がきっかけとなり、児童館に遊びにきている中高生向けにもバスケクリニックを開催してもらったことが、「カレッジスポーツ」立案の発端となる。

中高生という多感な時期に、自分の進路について悩みや不安をもっている中高生も少なくないが、自分たちの目先の存在である大学生とプログラムを通して交流する中で、現場のリアルな声を聞き、大学生活へのイメージを持ったり、自分の将来について考えたり、新しいことに挑戦し自らの可能性を見つける場を創出することを目的として、以降も毎年継続して実施している。

取組の概要

- ・実施種目：バスケットボール（クリニック）、卓球、フットサル、ダンス、スケボー 等
今年度はバドミントン、キンボールも予定。
- ・実施場所：体育館、集会室など種目に合わせた場所で実施。
用具は館内の備品を使用するが、必要な場合には事業費で購入。
- ・実施頻度：年 4 回
中高生の利用が多い水曜日の 18:00 以降に実施。1 時間～2 時間程度。
- ・職員体制：児童館部門の担当者 2 名（常勤）を配置。種目や体制によっては、複数名配置することもある。（非常勤含む）
- ・事業の実施方法：児童館利用者 OB や関係者、近隣大学などのサークル及び部活の代表者に学校を通して連絡をとり、各団体へ依頼。種目によっては大学生に留まらず、プロの講師を招いて実施することもあり。種目への興味関心を高め、将来の選択肢のひとつとしてプロ世界にも目を向けるきっかけとなる。

工夫点・留意点

- ・プログラムの企画内容や当日の進行は大学生が中心となっており、職員は運営がうまくいくようにサポートする。プログラムが中だるみした時には、職員側で声をかけて場の雰囲気コントロールするように気をつけている。
- ・プログラムの後半に中高生と大学生の懇親会を 30 分程度設けるようにしている。大学生活への期待感や、進路に関する悩みや不安を共有できる場となり、中高生にとって大学生のリアルな声を聞ける貴重な機会となっている。
- ・その種目に専門的に取り組んでいる中高生への声かけはもちろん、広く利用者へ周知し参加を呼びかけ、異学年・他校の中高生との交流も促進し、利用者間の繋がりを深めるようにしている。
- ・ニュースポーツや社会的に注目を集めているスポーツなどを取り入れ、日頃経験したことのない種目を体験することで、中高生の興味・関心の幅を広げる。

・児童館へ遊びに来ている中高生のニーズと職員側の認識にズレがないよう注意が必要。また、大学生にプログラムの意図や目的をしっかりと伝え理解を得ることはもちろん、当日は現場をコーディネートする力が求められる。



バスケットクリニック



卓球

取組の効果

- ・プログラムに参加した中高生が、大学生の的確な指導を受けて、競技レベルが向上した。また、大学生とともにプレーする中でそのレベルを体感し、モチベーションアップに繋がった。また、今までその種目を専門的に取り組んでこなかった中高生も、夢中になって楽しんでいる姿が見られ、興味・関心の高まりを感じた。
- ・年の近い大学生と交流する中で、自分たちの目指すべき姿やなりたい姿がイメージできたようである。参加した中高生からは好評で、また実施して欲しいとの声も多く聞かれた。
- ・プログラムを通して児童館と近隣の大学との繋がりが強くなったとともに、大学生にとっても社会的経験を積む場となっているようである。プログラムをきっかけに児童館のボランティアとして活躍してくれている学生もいる。

課題・今後の展開

- ・コロナ禍において、施設として外部団体を招いたプログラムの実施が難しく、また、団体へアプローチしても外部での活動に制限がかかっていたり、実施前に感染者が出てしまい中止となってしまうことがあった。現在は状況も改善し、実施に対して意欲的な団体も多くなっている。
- ・中高生女子の来館者が少なく、カレッジスポーツ自体も男子の参加が中心となっていることが多いため、幅広く中高生からニーズをひろいながら魅力的なプログラムの企画・運営ができるとうい。また、現在は館内の掲示やHPへの掲載、学校へのおたより配布等で利用者に周知しているが、今後は現代の中高生にとって情報源となっているSNS等の活用も検討していきたい。